

# 東日本大震災後の生徒の生活・学習環境の変化と教育復興政策の効果 —岩手県宮古市中学生対象の第2回，第3回調査を通して—

葉養 正明\*

## A Study of the Changes in Pupils' Living and Learning Conditions after the Great East Japan Earthquake and the Effectiveness of Policies to Restore Education: Based on 3 Surveys of Middle Schoolers in the City of Miyako, Iwate Prefecture

Masaaki HAYO

**要旨** The aim of this study was to clarify changes in the living and learning conditions of middle schoolers before and after the Great East Japan Earthquake of 2011. Pupils living in the City of Miyako, Iwate Pref., Japan were surveyed 3 times using the same questionnaire. This study focused on an analysis of changes in the social capital of pupils in 2007, 2013, and 2016 and the effects of the disaster on learning conditions and academic performance in 2013 and 2016.

This study yielded several findings.

Since the disaster, pupils' level of satisfaction with school life in general has improved.

Survey results in 2013 and 2016 revealed no negative effects of the disaster on the academic performance of middle schoolers.

The strong commitment of pupils, parents, the community, and government to restoring learning conditions has led to improved academic performance in the years since the Disaster.

The educational advancement of middle schoolers has been negatively affected, and this is especially true for pupils who have been living in shelters.

In order to keep poor learning conditions from hampering educational advancement, comprehensive recovery policies, including welfare and financial policies, need to be adopted.

**キーワード：**東日本大震災 継時的縦断調査 ソーシャル・キャピタル 子どもの学習環境 教育復興

### 1. 本稿のねらい

本稿は，2007〈平成19〉年度，2013〈平成25〉年度に実施された岩手県宮古市立中学生対象の2回の調査の対比と，第3回目（2016〈平成28〉年7～8月）の素集計の結果の報告を目的とする。それを通じ，東日本大震災からの教育復興政策の効果について解明を進める。

なお，第3回目の調査結果については素集計の段階にあるため，本稿では，これまで2回の調査の設計，解明された点，分析上の課題，とくに第2回目の調査で得られた仮設・みなし仮設・親せきの家vs自宅居住，新築の家でのクロス集計結果のまとめ，今後の研究に対する示唆，に限定して論述を進める。

---

\* はよう まさあき 文教大学教育学部心理教育課程

### 1-1. 研究テーマ設定の背景

時系列的な縦断調査を企図した背景は、東日本大震災とほぼ同じ時期（2011年2月22日）にNZカンタベリー地方に発生した震災の定点観測の結果と、東日本大震災被災地のそれとの対照性に関心を抱いたからである。なお、NZの震災は、カンタベリー地区クライストチャーチ市に大きな被害を与えた直下型地震であり、死者は185人に達した<sup>i)</sup>。

東日本大震災後数年間、そしてNZカンタベリー大地震後数年間、被災した各地の訪問を繰り返し、また数多くの被災校を視察し聞かれたのは、「被災した児童生徒の学習意欲や学力に明確な低下は見られない」という言説であった。NZについては、首都ウェリントンに所在するNZCER（NZ教育研究協議会）を訪問し、主任研究官にインタビューを試みている<sup>ii)</sup>が、震災後の学力分析による限り、「震災が原因で、被災校の生徒の学力状況が悪化したという結果は見いだせない」とされる。他方、我が国についても、1回目と2回目の中学生対象調査で震災前後の生徒を取り巻く生活と学習の環境の変化を見ると、あらゆる項目で、肯定的な評価は震災後の方が高まっている。

しかし、以上の状況は、NZについては、震災後3年間の聞き取りや研究報告書<sup>iii)</sup>に基づくもので、東日本大震災については、震災後数年間の現地調査や震災2年後（2013年）のアンケート調査等に基づく。

そこで研究関心として浮かび上がったのは、

- ①震災直後の学習意欲や学力状況の維持や底上げは、なぜ可能になったのか？
- ②NZクライストチャーチの被災校で校長等から聞かれたのは、「震災直後は先生たちも生徒の保護や学習状況維持に強いコミットメントを進めてきたので、学力の維持や底上げに成功しているが、震災の記憶が薄れてきた時期にどうなっているかについては、不安も抱く」という声であった。では、震災後ほぼ6年になる現時

点では、震災後数年の状況とどのような差異が生じているか？また、我が国の場合はどうか。

- ③被災地における子どもの学習への動機づけや成績は、どのようなメカニズムに支えられているか。教育復興という視点からは、これまでの復興政策をどう評価できるか？等の諸点である。

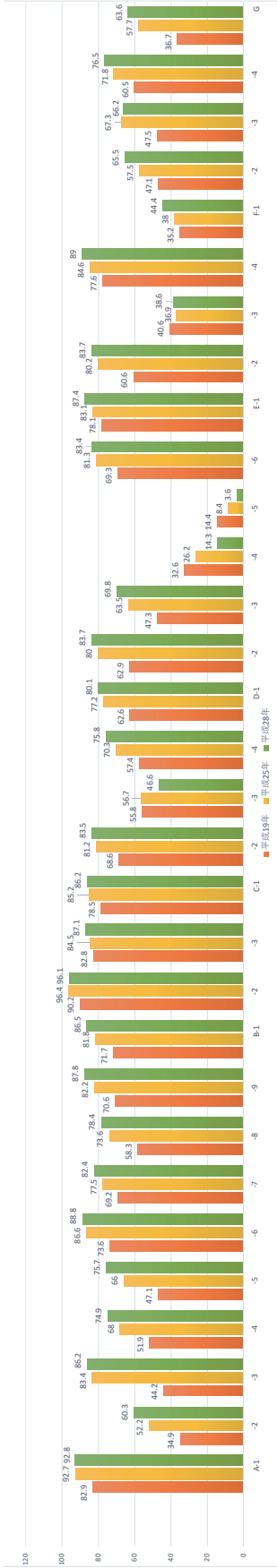
以上が2016年7～8月に3回目の調査に着手した主たる理由である。

### I. 第1回目調査と第2回目調査の総括的対比

はじめに、1回目から3回目までの調査結果を対比したデータを示す。2回目と3回目の調査は、2011（平成23）年3月の東日本大震災後のもののため、1回目の調査の設問に住んでいる住宅の種類や学力関係の設問も加えているが、1回目の場合には、震災前のため、生徒の生活と学習環境をとらえる設問のみで構成している。そこで、図1に示されるのは、1回目から3回目の調査に共通する学校の学習環境等に係る集計結果である。

図 1 宮古市中学生の震災前後の生活と学習の環境意識の変化（平成19、25、28年度）

	A-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	B-1	-2	-3	C-1	-2	-3	-4	D-1	-2	-3	-4	-5	-6	E-1	-2	-3	-4	F-1	-2	-3	-4	G
平成19年	82.9	34.9	44.2	51.9	47.1	73.6	69.2	58.3	70.6	71.7	90.2	82.8	78.5	68.6	55.8	57.4	62.6	62.9	47.3	32.6	14.4	69.3	78.1	60.6	40.6	77.6	35.2	47.1	47.5	60.5	36.7
平成25年	92.7	52.2	83.4	68	66	86.6	77.5	73.6	82.2	81.8	96.4	84.5	85.2	81.2	56.7	70.3	77.2	80	63.5	26.2	8.4	81.3	83.1	80.2	36.9	84.6	38	57.5	67.3	71.8	57.7
平成28年	92.8	60.3	86.2	74.9	75.7	88.8	82.4	78.4	87.8	86.5	96.1	87.1	86.2	83.5	46.6	75.8	80.1	83.7	69.8	14.3	3.6	83.4	87.4	83.7	38.6	89	44.4	65.5	66.2	76.5	63.6



- 注：
- A 生徒と教師の関係
1. 先生と生徒はお互いによく挨拶する
  2. 生徒は、困ったことなどを個人的に先生に相談している
  3. 先生は、この学校や生徒のことを大事にしている
  4. 先生は、一人一人の生徒がもっている問題や特徴をよく理解している
  5. 先生は、生徒のことをよくほめる
  6. 先生や職員は、生徒のためにいつも一生懸命働いている
  7. 先生は、生徒同士のけんかややめ事を解決しようとする
  8. 先生は、生徒にとり大人や社会人としてよい手本である
  9. 先生は、生徒にまもるべきルールをはっきり示している
- E 生徒同士の関係
1. 生徒は、お互いを思いやっている
  2. 学校の先輩と後輩は仲が良い
  3. クラスや学年でグループ間の対立がある
  4. 生徒同士が協力し合っている
- B 生徒の学習態度
1. 生徒は、学校の学習に一生懸命取り組んでいる
  2. 生徒は、文化祭や体育祭などの学校行事に一生懸命取り組んでいる
  3. 生徒は、学校生活を楽しんでいる
- C 学校や行事の運営
1. 学校の行事に、生徒会や生徒の意見が反映される
  2. 学校が、特に力を入れようとしていることが、生徒によく理解できる
  3. 学校や先生のやり方に疑問を感じても、先生に言えない
  4. 学校は、いじめや暴力、喫煙、不登校など生徒の問題に、一生懸命に取り組んでいる
- D 学校の安全、施設の整備
1. 学校にいて、安全だと感じる
  2. 教室や廊下は整理整頓されて、清潔である
  3. トイレがきれいで清潔である
  4. 学校内で、いやがらせやいじめ、暴力を目にすることがある
  5. ナイフなど危険なものを持ち込む生徒がいる
  6. 教育設備・学習環境（パソコン、教材、図書室、音楽室、運動施設など）が充実している
- F 学校と地域との関係
1. 親や地域の人がよく学校に来る
  2. 地域の人が学校の授業や行事を、よく手伝ってくれる
  3. 学校と地域との交流が盛んである
  4. 親は先生や学校を信頼している
- G この学校が好きですか

図1に示されるのは、どの設問についても調査のたびごとに肯定的な回答が増加する、ということである。

「被災」という概念には、「直接的被災」（家族などに人的被害、住宅の喪失、就業場所の喪失等）と、「間接的被災」（家族や住宅への直接的被害はない、あるいは、住宅に修繕の必要な個所が発生したが、比較的軽度の被害のみであった。しかし、津波等からの避難の途中で、津波に流される人を目撃、親友に大きな被害が生じた、あるいは、親せきや教わっている先生が被災した等々）も含まれる。その点では、住宅が被災したため「仮設住宅等」に居住している場合だけが「被災」とは言えない。

その観点からは、図1に示される全市的な生徒の意識傾向は、被災自治体の状況の変化を示すデータと見ることができる。

## Ⅱ、3回の調査の設計

### 2.1 調査の概要

次に、図1の基礎になった第1回目から3回目までの調査の設計や概要について、以下で説明を加える。上述したように、第1回目から3回目までの調査ではほぼ<sup>iv)</sup>同一の質問文を用いている。調査方法は、各中学校にアンケート用紙を宅急便で郵送し留め置き法を用いている。

#### 〈第1回目の調査〉

調査実施者：朝倉隆司、中澤智恵、竹鼻ゆかり、葉養正明（当時は、全員東京学芸大所属）

調査実施時期：平成19（2007）年

分析対象者：528人（1～3年生、抽出調査）

（一中131、二中63、河南中74、宮古西中91、花輪中31、津軽石中45、重茂中23、崎山中33、田老第一中34、田老第三中3）

性別：男 291、女 266、無記入 1

調査経費：科研費補助金挑戦的萌芽研究（研究代表者：朝倉隆司）

#### 〈第2回目の調査〉

調査実施者：朴澤泰男（一橋大学）、葉養正明（埼玉学園大学）

調査実施時期：平成25（2013）年

分析対象者：1468人（1～3年生悉皆調査）

（一中294、二中139、河南中239、宮古西中258、花輪中81、津軽石中114、重茂中45、崎山中91、田老一中94、新里中58、川井中55）

性別：男 778（53.1%）、女 686（46.9%）

調査経費：科研費補助金基盤研究（C）（研究代表者：葉養正明）

#### 〈第3回目の調査〉

調査実施者：葉養正明（文教大学）

調査実施時期：平成28（2016）年7～8月

分析対象者：990人（1～3年生悉皆調査）

（一中250、河南中234、花輪中64、津軽石中121、重茂中54、崎山中90、田老一中91、新里中54、川井中32）

\*二中と宮古西中については、集計作業終了時までに到着しなかったため省いている。

調査経費：文教大学教育学部共同研究競争的資金（研究代表者：葉養正明）

### 2.2 第1回目の調査のねらい

第1回目の調査では、地域の社会構造等により回答傾向が異なる可能性を斟酌し、台湾や韓国などの海外を含め、都市類型等が散らばるように対象地を選定している。それぞれの地域に配置される中学校の生徒を対象に、生活と学習の環境（家庭、地域社会、学校内の生徒同士、あるいは、教職員と生徒間の人間関係等）について回答を求めている。設問項目は、ソーシャル・キャピタル調査の観点で設計された。なお、質問項目の一部は、図1で示される<sup>v)</sup>。

### 2.3 今回の時系列的な縦断的調査のねらい

第2回目、第3回目の調査で使用している質問紙では、第1回目の調査結果との対比を意識し1

回目調査の設問はそのまま用い、2回目と3回目については、震災後であることを踏まえ一部設問を付加している。東日本大震災による子どもの生活と学習環境への影響をとらえるための、住居の形態や学習、将来の夢、進路意識等についての設問の追加である。

この縦断的時系列調査では、次のような点に焦点を置いている。

- (1) 子どもの生活と学習の環境に関する評価意識は、時系列的にはどのような変化がみられるか？
- (2) 子どもの居住形態によって、生活と学習の環境に関する評価意識に差異が見られるか？（仮設・みなし仮設・親せきの家vs元の自宅でクロス集計した際の、回答傾向の

解明)

- (3) 中学校による回答傾向の差異と通学区域の学歴構造等の解明

### Ⅲ、2, 3回目の調査に見る仮設・みなし仮設・親せきの家×自宅の生徒の学習環境の違い

以下には、仮設住宅・みなし仮設住宅・親戚の家と元の自宅をクロスさせ、2, 3回目調査結果による肯定的な回答と否定的な回答とを対比したデータを示す。なお、ここでは、差異が顕在化しているもの、本研究の仮設形成に関連する、と考えられるものに限定する。

\*なお、以下の表では、肯定的な回答と否定的な回答との差異を際立たせるため、中間的な回答（五分五分、平均くらい等等）をはずしている。

#### 【自尊感情】

表1 現在どのような所に住んでいますか、と、何か自分に自信がもてるものがありますか

〈2013年〉

現在どのような所に住んでいますか？	何か自分に自信がもてるものがありますか？		
	いろいろある＋ いくつかある	あまりない＋ない	合計
仮設住宅	45 (38.4%)	48 (51.6)	93 (100.0)
みなし仮設住宅（借り上げアパート）	34 (47.9)	37 (52.2)	71 (100.0)
親戚の家	14 (46.6)	16 (53.4)	30 (100.0)
新しく建てなおした自宅	57 (53.8)	49 (46.3)	106 (100.0)
元の自宅	534 (52.2)	488 (47.8)	1022 (100.0)
その他	33 (72.6)	29 (46.8)	62 (100.0)
合計	717 (51.8)	667 (48.2)	1384 (100.0)

〈2016年〉

現在どのような所に住んでいますか？	何か自分に自信がもてるものがありますか？		
	いろいろある＋ いくつかある	あまりない＋ない	合計
仮設住宅	7 (53.9%)	6 (46.2)	13 (100.0)
みなし仮設住宅（借り上げアパート）	31 (45.0)	29 (48.4)	60 (100.0)
親戚の家	12 (54.5)	10 (45.4)	22 (100.0)
新しく建てなおした自宅	57 (52.8)	51 (47.3)	108 (100.0)
元の自宅	349 (51.7)	325 (48.3)	674 (100.0)
その他	45 (61.6)	28 (38.4)	73 (100.0)
合計	501 (52.7)	449 (47.3)	950 (100.0)

表2 現在どのような所に住んでいますか、と、自分自身のことが好きですか

〈2013年〉

現在どのような所に住んでいますか？	自分自身のことが好きですか		
	非常にそう思う＋ かなりそう思う	あまりそう思えない＋ 全くそう思わない	合計
仮設住宅	21 (23.9%)	32 (36.4)	88 (100.0)
みなし仮設住宅（借り上げアパート）	14 (19.8)	17 (24.0)	71 (100.0)
親戚の家	4 (14.8)	10 (37.0)	27 (100.0)
新しく建てなおした自宅	20 (20.2)	29 (29.3)	99 (100.0)
元の自宅	220 (22.0)	650 (30.3)	1001 (100.0)
その他	16 (26.3)	15 (24.6)	61 (100.0)
合計	295 (21.9)	406 (30.2)	1347 (100.0)

〈2016年〉

現在どのような所に住んでいますか？	自分自身のことが好きですか		
	非常にそう思う＋ かなりそう思う	あまりそう思えない＋ 全くそう思わない	合計
仮設住宅	2 (15.0%)	5 (38.5)	13 (100.0)
みなし仮設住宅（借り上げアパート）	18 (30.0)	13 (21.7)	60 (100.0)
親戚の家	6 (27.2)	8 (36.4)	22 (100.0)
新しく建てなおした自宅	28 (25.5)	34 (30.9)	110 (100.0)
元の自宅	196 (29.0)	217 (32.1)	676 (100.0)
その他	30 (41.6)	14 (19.4)	72 (100.0)
合計	280 (29.4)	291 (30.6)	953 (100.0)

## 【学校の成績】

表3 現在どのような所に住んでいますか、と、学校での成績は、学年の平均と比べると、どのくらいですか

〈2013年〉

現在どのような所に住んでいますか？	学校での成績は、学年の平均と比べると、どのくらいですか？		
	平均よりかなり良い＋ 平均よりやや良い	平均より少し悪い＋ 平均よりかなり悪い	合計
仮設住宅	32 (34.4%)	41 (44.1)	93 (100.0)
みなし仮設住宅（借り上げアパート）	25 (34.7)	33 (45.8)	72 (100.0)
親戚の家	6 (19.4)	15 (48.4)	72 (100.0)
新しく建てなおした自宅	42 (39.2)	36 (33.6)	107 (100.0)
元の自宅	385 (37.7)	372 (36.4)	1022 (100.0)
その他	25 (39.7)	23 (36.5)	63 (100.0)
合計	515 (37.1)	520 (37.4)	1388 (100.0)

〈2016年〉

現在どのような所に住んでいますか？	学校での成績は、学年の平均と比べると、どのくらいですか？		
	平均よりかなり良い＋ 平均よりやや良い	平均より少し悪い＋ 平均よりかなり悪い	合計
仮設住宅	5 (38.5%)	7 (53.9)	13 (100.0)
みなし仮設住宅（借り上げアパート）	16 (27.1)	26 (44.1)	59 (100.0)
親戚の家	8 (38.1)	8 (38.1)	21 (100.0)
新しく建てなおした自宅	39 (35.5)	47 (42.7)	110 (100.0)
元の自宅	270 (40.1)	228 (33.9)	673 (100.0)
その他	37 (50.7)	19 (26.0)	73 (100.0)
合計	375 (39.5)	335 (35.3)	949 (100.0)

表4 現在どのような所に住んでいますか、と、4月に行われた「全国学力・学習状況調査」の国語の問題を、どのくらい解けましたか  
(2013年)

現在どのような所に住んでいますか？	4月に行われた「全国学力・学習状況調査」の国語の問題を、どのくらい解けましたか		
	8割以上+7～8割くらい	5割より少ない	合計
仮設住宅	11 (32.4%)	5 (14.7)	34 (100.0)
みなし仮設住宅（借り上げアパート）	3 (21.3)	5 (35.7)	14 (100.0)
親戚の家	4 (44.4)	0 (0.0)	9 (100.0)
新しく建てなおした自宅	8 (21.6)	7 (18.9)	37 (100.0)
元の自宅	119 (32.2)	56 (15.2)	369 (100.0)
その他	9 (42.9)	3 (14.3)	21 (100.0)
合計	154 (31.8)	76 (15.7)	484 (100.0)

\* 「6～7割くらい」と「5～6割くらい」の回答は省いている。

(2016年)

現在どのような所に住んでいますか？	4月に行われた「全国学力・学習状況調査」の国語の問題を、どのくらい解けましたか		
	8割以上+7～8割くらい	5割より少ない	合計
仮設住宅	2 (50.0%)	1 (25.0)	4 (100.0)
みなし仮設住宅（借り上げアパート）	5 (26.3)	3 (15.8)	19 (100.0)
親戚の家	2 (33.4)	0 (0.0)	6 (100.0)
新しく建てなおした自宅	11 (26.9)	7 (17.1)	41 (100.0)
元の自宅	86 (36.9)	29 (12.4)	233 (100.0)
その他	1 (11.1)	0 (0.0)	9 (100.0)
合計	107 (34.3)	40 (15.7)	312 (100.0)

\* 「6～7割くらい」と「5～6割くらい」の回答は省いている。

表5 現在どのような所に住んでいますか、と、4月に行われた「全国学力・学習状況調査」の数学の問題を、どのくらい解けましたか  
(2013年)

現在どのような所に住んでいますか？	4月に行われた「全国学力・学習状況調査」の数学の問題を、どのくらい解けましたか		
	8割以上+7～8割くらい	5割より少ない	合計
仮設住宅	11 (33.3%)	6 (18.2)	33 (100.0)
みなし仮設住宅（借り上げアパート）	5 (38.5)	5 (38.5)	13 (100.0)
親戚の家	3 (33.3)	0 (0.0)	9 (100.0)
新しく建てなおした自宅	9 (24.3)	7 (18.9)	37 (100.0)
元の自宅	91 (24.9)	87 (23.8)	365 (100.0)
その他	4 (9.5)	5 (23.8)	218 (100.0)
合計	123 (25.8)	110 (23.0)	478 (100.0)

\* 「6～7割くらい」と「5～6割くらい」の回答は省いている。

(2016年)

現在どのような所に住んでいますか？	4月に行われた「全国学力・学習状況調査」の数学の問題を、どのくらい解けましたか		
	8割以上+7～8割くらい	5割より少ない	合計
仮設住宅	2 (50.0%)	1 (25.0)	4 (100.0)
みなし仮設住宅（借り上げアパート）	4 (21.1)	4 (21.1)	19 (100.0)
親戚の家	2 (33.3)	0 (0.0)	6 (100.0)
新しく建てなおした自宅	14 (34.2)	8 (19.5)	41 (100.0)
元の自宅	72 (31.2)	39 (16.9)	231 (100.0)
その他	2 (22.2)	3 (33.3)	9 (100.0)
合計	96 (31.0)	55 (17.7)	310 (100.0)

\* 「6～7割くらい」と「5～6割くらい」の回答は省いている。

## 【学校が好きですか】

表6 現在どのような所に住んでいますか、と、この学校が好きですか

〈2013年〉

現在どのような所に住んでいますか？	この学校が好きですか		
	非常にそう思う＋ かなりそう思う	あまりそう思わない＋ 全くそう思わない	合計
仮設住宅	46 (50.0%)	18 (19.5)	92 (100.0)
みなし仮設住宅（借り上げアパート）	40 (54.8)	8 (10.9)	73 (100.0)
親戚の家	11 (35.5)	7 (22.6)	31 (100.0)
新しく建てなおした自宅	58 (53.2)	19 (17.4)	109 (100.0)
元の自宅	615 (59.4)	140 (13.5)	1035 (100.0)
その他	42 (64.6)	9 (13.8)	65 (100.0)
合計	812 (57.8)	201 (14.3)	1405 (100.0)

〈2016年〉

現在どのような所に住んでいますか？	この学校が好きですか		
	非常にそう思う＋ かなりそう思う	あまりそう思わない＋ 全くそう思わない	合計
仮設住宅	9 (69.3%)	1 (7.7)	13 (100.0)
みなし仮設住宅（借り上げアパート）	37 (62.7)	5 (8.5)	59 (100.0)
親戚の家	16 (72.7)	3 (13.6)	22 (100.0)
新しく建てなおした自宅	59 (55.1)	12 (11.2)	107 (100.0)
元の自宅	428 (63.8)	78 (11.6)	670 (100.0)
その他	51 (69.8)	7 (9.6)	73 (100.0)
合計	600 (63.6)	106 (11.2)	944 (100.0)

## 【家での勉強】

表7 現在どのような所に住んでいますか、と、学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか

〈2013年〉

現在どのような所に住んでいますか？	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか		
	まったくしない＋30分より少ない	2時間～3時間＋3時間以上	合計
仮設住宅	15 (16.2%)	20 (21.5)	938 (100.0)
みなし仮設住宅（借り上げアパート）	8 (11.6)	9 (13.0)	69 (100.0)
親戚の家	4 (13.4)	7 (23.3)	30 (100.0)
新しく建てなおした自宅	10 (9.4)	25 (23.5)	106 (100.0)
元の自宅	96 (9.5)	239 (23.5)	1015 (100.0)
その他	12 (19.1)	18 (28.9)	63 (100.0)
合計	145 (10.5)	318 (23.1)	1376 (100.0)

〈2016年〉

現在どのような所に住んでいますか？	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか		
	まったくしない＋30分より少ない	2時間～3時間＋3時間以上	合計
仮設住宅	2 (15.4%)	1 (7.7)	13 (100.0)
みなし仮設住宅（借り上げアパート）	15 (24.6)	4 (6.6)	61 (100.0)
親戚の家	5 (22.7)	5 (22.7)	22 (100.0)
新しく建てなおした自宅	18 (16.5)	11 (10.1)	109 (100.0)
元の自宅	92 (13.6)	91 (13.5)	675 (100.0)
その他	6 (8.2)	8 (11.0)	73 (100.0)
合計	138 (14.5)	120 (12.6)	953 (100.0)

【進学】

表8 現在どのような所に住んでいますか、と、高校を卒業できそうですか

〈2013年〉

現在どのような所に住んでいますか？	高校を卒業できそうですか		
	非常に大きい＋ かなり大きい	かなり小さい＋ 非常に小さい	合計
仮設住宅	45 (48.4%)	15 (16.1)	93 (100.0)
みなし仮設住宅（借り上げアパート）	30 (41.6)	8 (11.1)	72 (100.0)
親戚の家	14 (45.2)	6 (19.4)	31 (100.0)
新しく建てなおした自宅	55 (51.8)	9 (8.5)	106 (100.0)
元の自宅	501 (49.0)	113 (11.1)	1022 (100.0)
その他	25 (40.3)	10 (16.1)	62 (100.0)
合計	670 (48.3)	161 (11.7)	1386 (100.0)

〈2016年〉

現在どのような所に住んでいますか？	高校を卒業できそうですか		
	非常に大きい＋ かなり大きい	かなり小さい＋ 非常に小さい	合計
仮設住宅	6 (46.2%)	1 (7.7)	13 (100.0)
みなし仮設住宅（借り上げアパート）	24 (39.4)	9 (14.7)	61 (100.0)
親戚の家	13 (59.1)	2 (9.0)	22 (100.0)
新しく建てなおした自宅	47 (42.8)	17 (15.5)	110 (100.0)
元の自宅	335 (49.7)	75 (11.1)	674 (100.0)
その他	34 (47.9)	10 (14.1)	71 (100.0)
合計	459 (48.3)	114 (12.0)	951 (100.0)

表9 現在どのような所に住んでいますか、と、大学に進学できそうですか

〈2013年〉

現在どのような所に住んでいますか？	大学に進学できそうですか		
	非常に大きい＋ かなり大きい	かなり小さい＋ 非常に小さい	合計
仮設住宅	9 (9.7)	51 (54.9)	93 (100.0)
みなし仮設住宅（借り上げアパート）	13 (18.0)	30 (41.7)	72 (100.0)
親戚の家	1 (3.2)	16 (51.6)	31 (100.0)
新しく建てなおした自宅	21 (19.8)	44 (41.5)	106 (100.0)
元の自宅	179 (17.6)	436 (42.7)	1020 (100.0)
その他	4 (12.6)	34 (54.0)	63 (100.0)
合計	231 (16.7)	611 (44.1)	1385 (100.0)

〈2016年〉

現在どのような所に住んでいますか？	大学に進学できそうですか		
	非常に大きい＋ かなり大きい	かなり小さい＋ 非常に小さい	合計
仮設住宅	0 (0.0)	7 (53.9)	13 (100.0)
みなし仮設住宅（借り上げアパート）	4 (6.7)	33 (55.0)	60 (100.0)
親戚の家	4 (18.1)	6 (27.3)	22 (100.0)
新しく建てなおした自宅	18 (16.4)	59 (53.6)	110 (100.0)
元の自宅	119 (17.7)	273 (40.7)	670 (100.0)
その他	13 (18.6)	23 (32.9)	70 (100.0)
合計	158 (16.7)	401 (42.4)	945 (100.0)

#### IV, 2回目調査の結果を読む：仮設居住vs元の自宅居住とを対比して

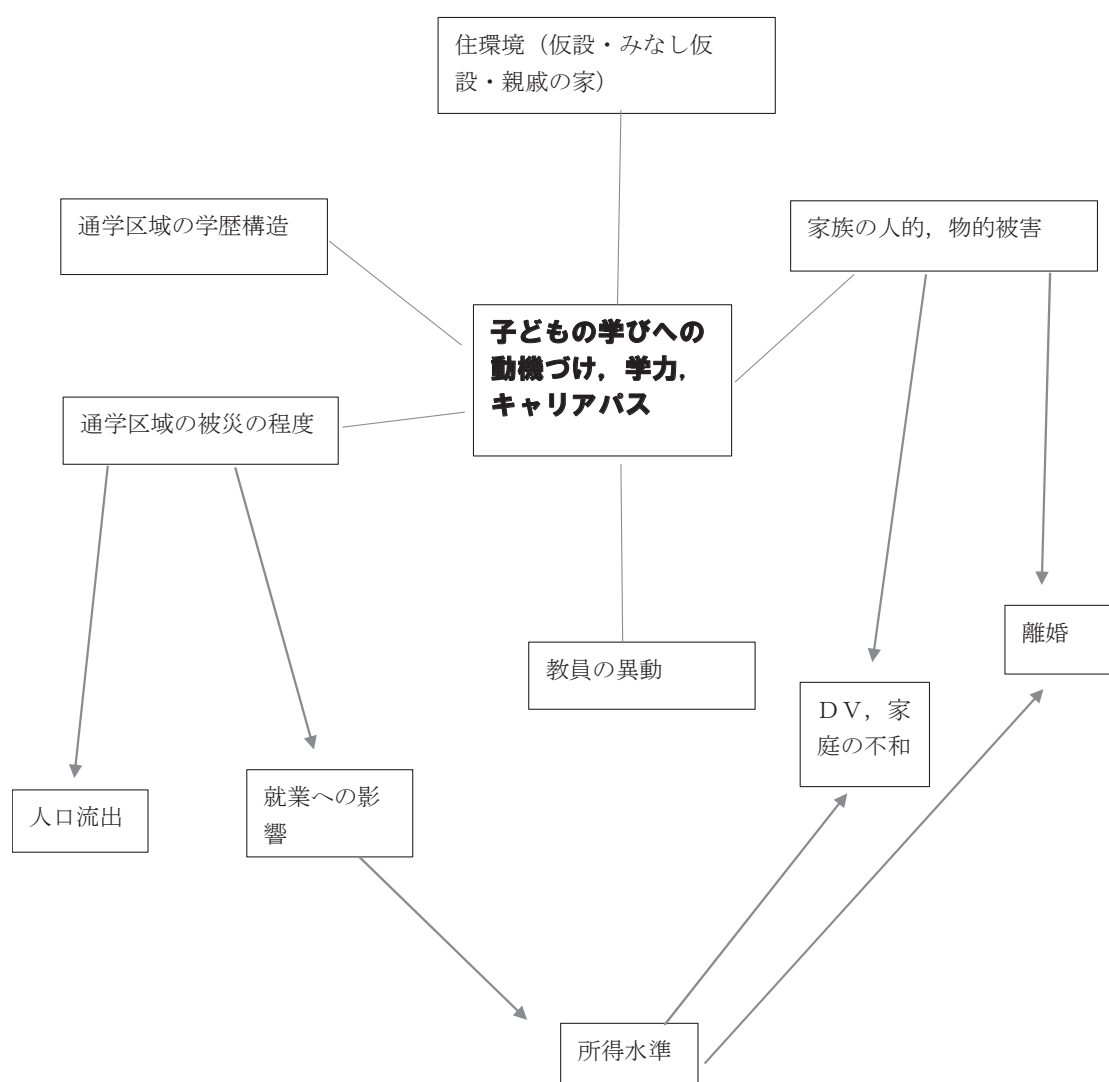
以上のデータを基礎に、子どもの学習を規定する要因の構造を考えてみよう。

本稿では、被災した生徒を仮設住宅・みなし仮設住宅・親せきの家居住の生徒とし、元の自宅等に戻った生徒を被災しなかった生徒とみなし、クロス集計を試みている。表1～8に示されるの

は、両者間に顕著な差異が見いだされるものである。

では、以上のデータは、子どもの学習を規定する要因を踏まえ、どのような説明可能性を示しているか、それを描いたのが図2である。今後、パス解析などを施し、要因間の関係を詳細に分析する課題が残されている。

図2 子どもの学びを規定する要因関連



#### V, 2回目調査に見る在籍中学校による回答の差異

なお、仮設等vs元の自宅等のクロス集計表を読み取る際に、中学校間の差異（学校運営、指導法、通学区域の地域特性）や中学校通学区域にお

ける学歴構造の差異などの影響を勘案する必要があるため、後者については表10～12としてデータを掲載している。

【中学校単位の仮設居住者等の比率】

表10 中学校ごとの住んでいる場所の分布

	現在、どのような所に住んでいますか。						合計
	仮設住宅	みなし仮設住宅 (借り上げ アパート)	親戚の家	新しく建て 直した自宅	元の自宅	その他	
中学校名 崎山中学校	4 (4.3)	0	1 (1.1)	8 (8.7)	75 (81.5)	4 (4.3)	92 (100.0)
第二中学校	16 (11.6)	7 (5.1)	3 (2.2)	10 (7.2)	94 (68.1)	8 (5.8)	138 (100.0)
重茂中学校	3 (6.7)	0	0	7 (15.6)	34 (75.6)	1 (2.2)	45 (100.0)
川井中学校	0	0	0	1 (1.9)	50 (92.6)	3 (5.6)	54 (100.0)
宮古西中学校	6 (2.3)	22 (8.6)	2 (0.8)	15 (5.9)	201 (78.5)	10 (3.9)	256 (100.0)
花輪中学校	0	0	0	6 (7.9)	68 (89.5)	2 (2.6)	76 (100.0)
新里中学校	0	0	1 (1.8)	2 (3.5)	54 (94.7)	0	57 (100.0)
津軽石中学校	17 (14.9)	6 (5.3)	2 (1.8)	9 (7.9)	78 (68.4)	2 (1.8)	114 (100.0)
河南中学校	12 (5.0)	15 (6.3)	7 (2.9)	18 (7.5)	175 (72.9)	13 (5.4)	240 (100.0)
田老第一中学校	29 (29.9)	3 (3.1)	6 (6.2)	9 (9.3)	44 (45.4)	6 (6.2)	97 (100.0)
第一中学校	7 (2.8)	23 (8.5)	11 (4.0)	27 (9.9)	186 (68.4)	18 (6.6)	272 (100.0)
合計	94 (6.5)	76 (5.3)	33 (2.3)	112 (7.8)	1059 (73.5)	67 (4.6)	1441 (100.0)

【中学校による生徒の成績の分布の違い】

表11 中学校ごとの「全国学力・学習状況調査」の国語の問題を解けた度合い

	4月におこなわれた「全国学力・学習状況調査」の国語の問題を、どのくらいとけましたか。					合計
	8割以上	7～8割くらい	6～7割くらい	5～6割くらい	5割より少ない	
中学校名 崎山中学校	1	6	9	9	9	34
第二中学校	3	7	20	17	9	56
重茂中学校	1	1	7	3	4	16
川井中学校	2	3	5	8	3	21
宮古西中学校	16	19	22	8	5	70
花輪中学校	9	5	8	4	1	27
新里中学校	4	8	1	6	2	21
津軽石中学校	5	5	4	15	4	33
河南中学校	10	14	29	22	14	89
田老第一中学校	4	9	10	8	8	39
第一中学校	9	16	22	22	19	88
合計	64	93	137	122	78	494

表12 中学校ごとのこの学校が好きな生徒の分布

	この学校が好きですか.					合計
	非常にそう思う	かなりそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	
中学校名 崎山中学校	10	27	33	15	6	91
第二中学校	31	39	42	16	13	141
重茂中学校	7	15	16	5	1	44
川井中学校	12	17	18	5	3	55
宮古西中学校	36	99	89	21	10	255
花輪中学校	19	32	21	6	1	79
新里中学校	38	15	4	0	1	58
津軽石中学校	29	42	30	11	2	114
河南中学校	87	85	45	14	6	237
田老第一中学校	22	32	26	7	9	96
第一中学校	59	74	76	26	28	263
合計	350	477	400	126	80	1433

## VI. おわりに—今後の課題

本稿では、冒頭に次の3つの問いを掲げている。

(1) 震災直後の学習意欲や学力状況の維持や底上げは、なぜ可能になったのか？

(2) NZクライストチャーチの被災校で校長等から聞かれたのは、「震災直後は先生たちも生徒の保護や学習状況維持に強いコミットメントを進めてきたので、学力の維持や底上げに成功しているが、震災の記憶が薄れてきた時期にどうなっているかについては、不安も抱く」という声であった。では、震災後5年半になる現時点では、震災後数年の状況とどのような差異が生じているか？また、我が国の場合はどうか。

(3) 子どもの学習への動機づけや成績は、どのようなメカニズムに支えられるものであるか。教育復興という視点からは、どのような復興政策が求められるか？

以下、まとめとして、各問いについて考察を加えよう。

(1) に関して：

NZカンタベリー大地震が及ぼしている生徒の学習状況に関する効果については、NZのCERA（カンタベリー地震復興機構）による「教育成

果：NCEA（National certificate of educational achievement）第二レベル通過率」と題する記事（2013年6月刊）で紹介される<sup>vi)</sup>。

この記事で上記（1）の課題に関連するのは、「NCEAの成績は地震でどのように影響を受けたか」と題する記述であり、以下のようになっている。

「2011年には、NZ質査証機構は、大クライストチャーチの生徒の特別な段階測定の方策を開発した。この方式は、学校の閉鎖や学校の共同利用が学習を害したり、あるいは、それをやわらげたりした可能性を調べる趣旨で企画された。

結論的に言えば、他校をシェアしている学校の大多数を含め、多くの学校は2010年よりも2011年により良好な成績を収めた。この発見は、NCEA導入以降この地域では結果の改善が見られるという傾向と符牒を合わせている。」

(2) に関して：

震災が被災生徒にどう影響したかについては、NZウェリントンのNZCER主任研究官Wylie,C.に対するヒアリングでも、確認された。氏から聞き取ることができたのは、研究所の学力分析官に分析を依頼したところ、被災が学力に負の影響を及ぼしているというデータは得られない、それどこ

ろか、ケースによっては、震災後学力が押し上げられている実態もみられる、ということであった。

我が国の東日本大震災についても、図1で見たように、「生徒は、学校の学習に一生懸命取り組んでいる」という項目への回答は、震災後約10%程度肯定率が増加している。

NZクライストチャーチでの被災校校長対象のヒアリング結果では、その背景として、「生徒や教職員、地域住民、政府等々関係者が生徒の学習維持に強くコミットしたこと」があげられている。

なお、震災6年目の状況について、2016年8月に訪問した宮城県女川町教育委員会教育長（村上善司氏）は、インタビューに際して配布された資料「あれから6年」の中で、子どもが抱える課題として、次の事項を指摘している。

- ・学力低下
  - ・心のケアを必要とする児童生徒の潜在化
  - ・体力低下
  - ・二極化
  - ・大人の疲弊感
  - ・小学校低学年における「気になる子」の増加
- （3）に関して：

さらに、東日本大震災で被災を受けた宮古市内の中学校校長あてインタビューを実施し、しばしば聞かれたのは、震災後の離婚家庭の増加等家庭環境が悪化している、という点であった。その背後には、震災による就業基盤の崩壊等が絡んでいることが想定されるが、その結果、生徒の学習については、負のスパイラルが出現している可能性が示唆された。

つまり、生徒の生活基盤の弱体化や崩壊→将来の進路や夢に対するネガティブな意識の醸成→学びへの動機づけの低下、というスパイラルである。多くの校長に指摘されたのは、「仮設居住だから」という変数よりも、家族や家庭の崩壊等の変数の規定力が大きいということであった。

以上を総括し、現段階で筆者が抱いている仮説

は、「子どもの学習への被災の効果のメカニズム」は、「貧困が及ぼす子どもの学びへの効果」のそれときわめて類似している、というものである。

したがって、被災地の子どもの学びの保障政策は、教育分野に限定した対応にとどまらず、0歳からの子どもの成長発達支援策、離婚やDVへの対応、就業支援等々、「子どもの貧困」問題で提起される方策メニュー<sup>vii)</sup>が総動員される必要がある。なお、そうした総合政策の打ち出しに際しては、「子どもの学習」をコアにすることが求められることは言うまでもない。

#### 〈参考文献：〉

- 1, M.J.Connolly: The impact of the Canterbury earthquakes on educational inequalities and achievement in Christchurch secondary schools, 2013
- 2, 村上善司：あれから6年, 2016
- 3, CERA: Canterbury Wellbeing Index Educational achievement: NCEA Level 2 pass rate, published June 2013
- 4, 朝倉隆司：ソーシャル・キャピタルは子どもの健康格差を緩和する鍵となるか（学術の動向：JSCニュース, 15（4）：88-95, 2010）
- 5, 東日本大震災による被災校校長対象のヒアリングの結果やNZクライストチャーチの被災校校長あるいはクライストチャーチ及びウェリントン教育省高官対象のヒアリングのデータはかなりの量になっているが、その報告資料の作成は別途検討している。
- 6, その他、被災後6年になり多数のモノグラフ、研究書類が積み重なってきている。それらの一々の提示は省略する。

---

i) NZカンタベリー大地震による教育への被害の状況全般や被災校の実態や対応、政府の復興政策などについては、『週刊 教育資料』

No.1236からNo.1277 (2013年1月7・14日～2013年12月2日) (教育公論社)に掲載している.

ii) 2012年11月同研究所の主任研究官Wiley,C.に面談.

iii) M.J.Connolly: The impact of the Canterbury earthquakes on educational inequalities and achievement in Christchurch secondary schools, 2013

iv) なお, 2回目, 3回目の質問文については, 生徒の住居や学習状況, 親戚等の人的環境等に関する設問を追加している.

v) 同調査は, 東京学芸大学の朝倉隆司教授を研究代表者として実施された. 科研費補助金に基づく. 調査対象地は, 国内では氷見市, 北九州市, 宮古市, 市川市, 国分寺市など, 国外ではソウル市, 台北市などであった.

今回の時系列的な縦断調査は, その際に作成されたアンケート用紙を基礎にしながら, 震災をはさんでの追跡調査として設計されている.

vi) CERA: Canterbury Wellbeing Index  
Educational achievement: NCEA Level 2  
pass rate, published June 2013

vii) なお, 子どもの貧困対策にかかわる報告書には, 次のようなものがある. 足立区・足立区教育委員会・国立成育医療研究センター研究所社会医学研究部: 未来へつなぐあだちプロジェクト 子どもの健康・生活実態調査 平成27年度報告書, 平成28年4月